

評価者	環境部長	能條 裕子
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	3Rの推進・ごみの適正処理
目標とすべきまちの姿	大量消費・大量廃棄社会からの脱却についての市民等の理解が浸透し、家庭系ごみ及び事業系ごみの発生量は減少しています。 ごみ焼却施設は計画的な更改、改修が進み、ごみの焼却効率が上がり、省エネルギーかつ環境に配慮した資源の処理が可能となっています。 ごみの発生抑制、再使用、循環資源の再生利用が市民生活に根付き、市民、事業者、市が協働して、安定的で着実なごみ処理が行われています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	8.2%	平成30年度(2018年度)	7.9%	平成29年度(2017年度)	8.6%
	平成28年度(2016年度)	8.4%	平成27年度(2015年度)	9.3%		

(2) 妥当性

**令和元年度(2019年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.6%	3.7%	0.2%
ちょうどよい	8.6%	48.2%	1.8%
効果不十分	9.4%	4.5%	9.1%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成30年度(2018年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	4.1%	3.5%	0.3%
ちょうどよい	9.4%	46.6%	0.2%
効果不十分	8.8%	5.0%	8.1%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成29年度(2017年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	4.9%	3.0%	0.0%
ちょうどよい	8.1%	43.4%	1.2%
効果不十分	10.0%	4.6%	11.4%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成28年度(2016年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	3.0%	5.5%	0.0%
ちょうどよい	8.7%	44.0%	0.9%
効果不十分	10.7%	4.3%	8.4%

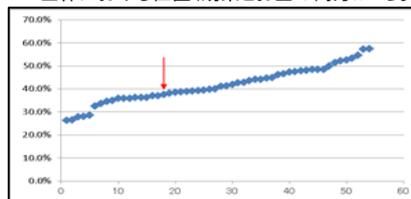
仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成27年度(2015年度)

		お金の使い方		
		使いすぎ	ちょうどよい	足りない
仕事の効果	必要以上の効果	3.3%	4.1%	0.6%
	ちょうどよい	9.4%	37.6%	1.4%
	効果不十分	12.4%	4.6%	10.9%

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	33.3%	48.8%	3.0%	14.9%
平成30年度(2018年度)	30.4%	51.9%	2.6%	15.0%
平成29年度(2017年度)	33.2%	46.9%	6.0%	13.9%
平成28年度(2016年度)	29.7%	52.6%	3.7%	14.0%
平成27年度(2015年度)	37.2%	43.5%	3.0%	16.3%

2 内部評価

(1) 令和元年度(2019年度)の目標

- ①令和元年度のごみ焼却量削減に向け、家庭系ごみや食品ロス削減、製品プラスチック等の資源化の推進とともに、事業者に対する個別訪問を実施し分別の指導徹底を図ることにより、焼却量削減を目指す。(環境-04)
- ②鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画を策定する。(環境-11)
- ③「将来のごみ処理体制についての方針」及び「2市1町ごみ処理広域化実施計画」さらに住民等の意見を踏まえて、「第3次一般廃棄物処理基本計画」の見直しを図る。(環境-03)(環境-04)(環境-05)
- ④燃やすごみについては、新たな方針に基づき、広域連携及び圏域外の処理に向けた処理体制を構築する。(環境-10)

(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

- ①年間ごみ焼却量削減に向けた取組を継続することにより、省エネルギーかつ環境に配慮した資源化処理や安定的で着実なごみ処理の実現を図ることができる。(環境-04)
- ②鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画を策定することで、将来にわたり安定的なごみ処理体制を構築することができることから、省エネルギーかつ環境に配慮した、安定的で着実なごみ処理の実現を図ることができる。(環境-11)
- ③「第3次一般廃棄物処理基本計画」の見直しをすることにより、更なるごみの減量・資源化を図り、焼却に頼らない安定的で着実なごみ処理の実現を図ることができる。(環境-03)(環境-04)(環境-05)
- ④燃やすごみの処理については、新たな焼却施設建設をするのではなく、ゼロ・ウェイストを目指して更にごみ減量・資源化を進める方向に方針転換し、広域連携及び圏域外の処理を行なうことで、省エネルギーかつ環境に配慮した処理が可能となる。(環境-10)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
		令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元 年度 (2019 年度)	平成 30年度 (2018年 度)		事業内容	予算規模
環境-01	環境運営事業	206,427	190,854	3.3	3.5	無	b	B
環境-03	ごみ収集事業	667,863	634,703	3.0	3.0	無	a	A
環境-04	ごみ資源化事業	743,012	685,536	4.5	4.5	無	a	B
環境-05	3R推進事業	30,407	29,578	7.3	7.5	無	b	B
環境-07	廃棄物処理施設のマネジメント事業	43,826	334,430	1.6	1.0	無	a	C
環境-08	名越クリーンセンター管理運営事業	60	58	0.1	0.1	無	b	B
環境-09	最終処分事業	179,597	182,419	0.8	1.0	無	b	C
環境-10	新焼却施設整備事業	0	0	0.2	1.2	無	c	C
環境-11	ごみ処理広域化計画推進事業	0	0	1.6	1.0	無	a	B
環境-20	名越クリーンセンター管理運営事業	450,251	417,303	4.2	4.2	無	a	C
環境-21	今泉クリーンセンター管理運営事業	98,583	90,978	1.9	1.9	無	b	C
環境-22	名越クリーンセンター収集事業	18,123	17,474	42.3	44.8	無	a	C
環境-23	今泉クリーンセンター収集事業	17,665	20,114	26.8	27.8	無	a	C
環境-24	笛田リサイクルセンター管理運営事業	159,589	156,879	3.8	3.8	無	a	B

**(4) 主な実施内容**

<p><b>【主な実施内容】</b></p> <p>①家庭からクリーンステーションに排出されるビン・缶・プラスチックなどの資源物や、燃やすごみなどの収集・運搬業務を民間事業者にて委託して実施した。(環境-03)</p> <p>①資源物については、ペットボトル、古紙類、容器包装プラスチックなどの品目ごとに資源化を図った。廃棄物発生抑制等啓発指導員が市内の多量排出事業者等を訪問し、ごみの分別・排出指導を行うことで、適正排出を図った。(環境-04)</p> <p>①「ごみの分け方・出し方」などの市民及び事業者向けの啓発資料を広く配布するとともに、自治・町内会などへの説明会を通じて、分別方法の周知・啓発を図った。(環境-05)</p> <p>②鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画の策定に向けて、協議会、勉強会及び作業部会を開催し、協議を進めた、鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画(素案)を公表した。(環境-11)</p> <p>③法定計画である「第3次一般廃棄物処理基本計画」に、本市の将来のごみ処理体制を位置づけ、本市の廃棄物処理方法を明確にするための改定を行う必要があることから、鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会へ諮問を行い、現在も継続して審議を行っている。(環境-03)(環境-04)(環境-05)</p> <p>③燃やすごみの処理について、災害時及び緊急時の連携や様々な処理方法の活用の可能性を探るためサウンディング調査を開始した。(環境-03)(環境-04)(環境-05)</p> <p><b>【実施できなかった事業とその理由等】</b></p> <p>②2市1町ごみ処理広域化実施計画の策定に向けた協議に時間を要したため、第3次一般廃棄物処理基本計画の改定には至らなかった。</p>
--

**(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善
<b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b>		
<p>①本市のごみ減量、資源化、適正処理についての基本的な方向性を定めた「第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画」及び「令和元年度ごみ処理基本計画アクションプログラム」に基づく取組を行った結果、令和元年度ごみ焼却量は29,993トンとなり、平成30年度に引き続き30,000トン以下に削減することができた。(環境-03)</p> <p>①収集量で比較すると家庭系ごみは対前年比0.8%、146トンの増加となったが、平成元年度がうるう年で平成30年度と比べ収集日が1日多いことを考慮するとほぼ同様の量と評価できる。また、事業系ごみは同様に1.6%、152トンの減量となり、合計で、0.02%、6トンの減量を行った。(環境-04)(環境-05)</p> <p>②鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画の策定に向けて、協議会、勉強会及び作業部会を開催し、協議を進めた、鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画(素案)を公表した。(環境-11)</p> <p>③「将来のごみ処理体制についての方針」及び令和元年11月に策定した「2市1町ごみ処理広域化実施計画素案」について住民説明及びパブリックコメントを実施し、「第3次一般廃棄物処理基本計画の見直し」に向けて令和2年1月に鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会へ諮問を行い協議を行った。(環境-03)(環境-04)(環境-05)</p> <p>④サウンディング調査の結果、19者の応募があり、令和2年度各事業者と対話して連携の可能性を確認する。(環境-03)(環境-04)(環境-05)</p>		

**3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)**

整理番号	環境-03	事業名	ごみ収集事業							
指標の内容	ごみ発生量の削減					単位	トン	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	達成率は目標値/実績値とした。R01実績値は、9月中旬に確定予定		
ごみ発生量の削減は安定的で着実なごみ処理体制の構築に必要なため。	目標値	61,320.0	62,715.0	62,086.0	61,259.0	60,240.0	60,144.0			
	実績値	66,922.0	63,669.0	65,408.0	59,746.0	58,607.0	集計中			
	達成率	91.6%	98.5%	94.9%	102.5%	102.8%				
整理番号	環境-04	事業名	ごみ資源化事業							
指標の内容	ごみ焼却量の削減					単位	トン	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	達成率は目標値/実績値とした。		
ごみ処理は、市町村の義務であるとともに市民生活に欠かすことのできないものであることから、周辺住民との協定に基づき、年間焼却量上限値を見据え、適正に実施していくため。	目標値	30,721	29,923	32,273	31,208	29,896	29,828			
	実績値	37,284	34,882	36,384	30,852	29,992	29,993			
	達成率	82.4%	85.8%	88.7%	101.2%	99.7%	99.4%			

整理番号	環境-04	事業名	ごみ資源化事業							
指標の内容	リサイクル率の向上					単位	%	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	R01実績値は、9月中旬に確定予定		
リサイクルをすすめることで循環型社会を構築し、焼却量の削減を図るため。	目標値	50.0	50.0	50.3	50.6	50.9	51.2			
	実績値	48.2	48.4	47.2	51.5	52.0	集計中			
	達成率	96.4%	96.8%	93.8%	101.8%	102.2%				